

ちがさき市民大学／世界に果たす日本の貢献

照屋 行雄

1 ちがさき市民大学の概要

神奈川県茅ヶ崎市では、市民の生涯学習推進の一環として、2001年度に「ちがさき市民大学」を開設した。市民大学の主な趣旨や目的は、次のとおりとなっている。

- ① “市民による市民のための大学”として市民の多様な学習ニーズにこたえること
- ② 地域社会および国際社会の良き市民として自主的に学ぶ自己学習の場となること
- ③ 市民の参加と自由性を重んじ、行政の支援を得つつ市民主導の運営を目指すこと
- ④ 高度な知識と技能を獲得し、専門的かつ継続性のある学習の機会とすること

市民大学は、学長(教育長)の下に市民参加による企画運営委員会を設置し、事務局の茅ヶ崎市教育委員会の支援を得て運営されている。そこでの学習課題もしくは学習内容は、次のようになっている。

- ① 市民のライフステージに対応した生活課題と内容
- ② 地域性を活かし、市民の学習ニーズに応える課題と内容
- ③ 人権、環境、教育、福祉、国際化、情報化、男女共同参画社会などの現代的課題

また、学習の形態および学習方法は、次のように運営されている。

- ① 芸術文化コース——芸術、文学、歴史など
- ② 社会生活コース——少子高齢化、福祉、環境、男女共同参画社会など
- ③ 講座開設—— Semester制を採用し、前期6回、後期6回の連続講座

ちがさき市民大学は、これまで3年間で6 Semesterを運営している。2003年度については、前期講座として統一テーマ「学びのすすめ—教育の源流を探る—」を開設し、また、後期講座として同「世界に果たす日本の役割—国際貢献を中心に—」を開設した。

2 2003年度後期講座の支援

ちがさき市民大学企画運営委員会より、2003年度後期の講座企画に当たって、国際経営研究所の所長（照屋行雄／筆者）に対して、企画案の作成並びに講師陣の組織化について、2003年7月に相談と要請があった。

当研究所としては、地域交流および産公学連携の事業を推進しているところから、その重要な一環としてちがさき市民大学の要請に積極的に対応することとした。2004年2月～3月に実施の後期講座の企画案（統一テーマや各講座個別テーマ、並びにその狙いや概要）は、次のとおりである。

- ① 統一テーマ 「世界に果たす日本の役割—国際貢献を中心に—」
- ② 個別テーマおよびその概要

第1回 「国連の現状と日本の役割」

国際社会の中で、世界の平和と安全を維持するために国連が果たしてきた役割と限界について最近の国際紛争の実例から学び、国連における日本の貢献度を分担金および活動状況などの面から学習する。

第2回 「政府開発援助（ODA）のあり方」

日本の戦後の復興を資金的に支えたODAの果たした役割は大きかった。その後、日本は援助国になり、アジアの国々の経済的な発展に影響を及ぼした。日本の援助の活用例と実際に援助を行っているJICAなどの取り組みについて現状を知り、今後のODAのあり方について考える。

第3回 「NGOによる国際貢献」

NGO/NPOなど国際社会で注目されている市民活動団体の実状を知り、国際機構や政府とは異なる立場の国際協力のあり方としてその存在意義を学び、民間レベルの国際協力の可能性について考える。

第4回 「産業の国際化」

高度成長期から現在まで、日本の産業構造が円高や外圧などにより変化した経緯をたどり、現在直面している経済上の問題点を整理し、世界市場の中でどのような変容を遂げていくべきかについて可能性を考える。

第5回 「生活文化の国際化」

人や物資の交流が進み、われわれが生活の国際化を享受する一方で、SARSなどの感染症やBSEなどの新たな脅威が出現し、生活の安全保障が脅かされている。日常生活の国際化について学び、新たな脅威に対してどのような取り組みが必要かを考える。

第6回 「海外から見た日本」

海外で評価されている日本の文化、例えばマンガなどを通して日本的な価値観が海外でどのように受け入れられているかを学ぶ。また、日本や日本人が海外や外国人からどのように評価されているかについて外国人から聞いて知る。

3 講師陣の組織

後期講座の講師陣として、次のような6名の講師を組織した。その際、基本的なプロフィールと主たる推薦理由を付して推薦し、本人の協力・支援など各種のコーディネートを行った。講師陣6名の組織に当たっては、神奈川大学国際経営研究所のスタッフから3名（経営学部教授）および経営学部の特任教授1名を講師として派遣し、協力を得た。

筆者がコーディネートした各講座の講師、プロフィール、推薦理由および講演のポイントを示せば、以下のとおりである。

第1回（2月14日）「国連の現状と日本の役割」／石積 勝 氏

<講演ポイント>

- ・国連の役割・貢献と限界
- ・最近の国際紛争と国連
- ・日本の安全保障と国連
- ・国連の財政と日本の分担金
- ・国連の活動と日本の貢献

<講師プロフィール>

- ・いしずみ まさる（53歳）
- ・神奈川大学経営学部・大学院教授
- ・国際関係論(国際機構、政治文化)
- ・トロント大学政治学部大学院修了
- ・国連事務局ニューヨーク本部勤務

<講師推薦理由>

- ① 国連を中心とした国際機構論を専攻し、政治文化論を研究していること
- ② 国連事務局で、主に経済援助活動に従事する実務経験を持っていること
- ③ 国際会議でのパネリスト等の多彩な活動と豊富な人脈を築いていること

第2回（2月21日）「政府開発援助（ODA）のあり方」／嘉数 啓 氏

<講演ポイント>

- ・政府開発援助の仕組みと規模
- ・ODAと日本企業の海外進出
- ・JICAのODA取り組み
- ・ODAの問題点と課題
- ・今後の日本ODAのあり方

<講師プロフィール>

- ・かかず ひろし（60歳）
- ・日本大学生物資源科学部教授
- ・地域経済論(国際比較、開発援助)
- ・ネブラスカ大学院修了(Ph.D)
- ・アジア開発銀行援助局専門官

<講師推薦理由>

- ① グローバルな視点での地域経済論や発展途上国論の第一人者であること
- ② アジア銀行等でODAの国際的取組みについて実践し、精通していること
- ③ 開発金融公庫等での開発援助のあり方に関する決定に参加していること

第3回(2月28日)「NGOによる国際貢献」 / 今田克司氏

<講演ポイント>

- ・NGOの役割と国際貢献
- ・日本におけるNGOの現状
- ・NGOの活動実態
- ・民間国際交流の展開可能性
- ・政府・国際機関とNGOの役割分担

<講師プロフィール>

- ・いまだ かつじ (42歳)
- ・日米コミュニティー・エクステンジ(JUCEE)代表
- ・UCバークレー校公共政策修士号
- ・CSO(市民社会組織)連絡会事務局長

<講師推薦理由>

- ① アメリカでのNPO設立を踏まえて、NGOの組織と役割に詳しいこと
- ② NPOのマネジメントおよび産官学の連携に実践的に取り組んでいること
- ③ CSO連絡会を運営し、民間国際協力のあり方を常に探求していること

第4回(3月6日)「産業の国際化」 / 田中則仁氏

<講演ポイント>

- ・日本経済の国際化推移
- ・産業国際化の現状
- ・日本企業の国際経営戦略
- ・国際企業環境の変化と日本企業の対応
- ・日本産業の構造改革と国際的展望

<講師プロフィール>

- ・たなか のりひと (49歳)
- ・神奈川大学経営学部・大学院教授
- ・国際経済学(多国籍企業論)
- ・慶應義塾大学大学院博士後期課程
- ・カンザス大学経営学部客員教授

<講師推薦理由>

- ① 日本経済の国際化と日本企業の国際的展開を研究して、成果が多いこと
- ② アジアやEU諸国等海外での企業実態調査や事例研究が豊富であること
- ③ 日本経済・産業の問題点と変革についての整理と解説が明快であること

第5回(3月13日)「生活文化の国際化」 / 加藤薫氏

<講演ポイント>

- ・消費生活・社会文化の国際化
- ・食の安全保障と社会の秩序防衛
- ・外国における日本文化の理解
- ・国際的脅威への対応

<講師プロフィール>

- ・かとう かおる (54歳)
- ・神奈川大学経営学部教授
- ・ラテンアメリカ美術史(生活文化)
- ・メキシコ自治大学院修了(UNAM)

- ・異文化間相互理解の将来ビジョン ・国連大学RGSコンサルタント

<講師推薦理由>

- ① 現代美術や植民地文化を専門とするが、生活文化の国際化に詳しいこと
- ② ボランティア、防災・環境保護等の社会文化的活動を実践していること
- ③ 国際化の中の生活文化の運営に関する将来ビジョンを提示していること

第6回（3月20日）「海外から見た日本」／ ゲプハルト・ヒールシャー 氏

<講演ポイント>

- ・日本社会の特徴（論理と構造）
- ・日本人の国際理解
- ・日本国内での外国人対応
- ・日本人の海外での社会適応
- ・日本に期待される国際貢献

<講師プロフィール>

- ・Gebhard Hielscher(68歳)
- ・ジャーナリスト、ドイツ弁護士
- ・国際法務、国際労働、マスコミ
- ・フライブルグ大学法学部卒業
- ・日本外国特派員協会会長(94-95)

<講師推薦理由>

- ① ジャーナリストとして長年にわたり、日本と日本人を観察していること
- ② 異文化間摩擦や相互理解のあり方についての高い見識を持っていること
- ③ 労働・生活問題を中心に各種委員を務め、日本の社会制度に詳しいこと
- ④ 流暢な日本語を駆使し、多くの大学で世界の中の日本を語っていること

4 後期講座の成果

ちがさき市民大学の2003年度後期講座（2004/2/14～3/20、6回連続講座）は、統一テーマ「世界に果たす日本の役割—国際貢献を中心に—」の下に様々な視点から、多彩な内容の講座となった。茅ヶ崎市に居住もしくは在勤する市民が各回平均110名が受講した。筆者も、スタッフ・コーディネーターとしての責任もあり、第3回の講座を除いて開講式を含め毎回出席し、受講市民とともに学習する貴重な機会を得た。

受講生には、出席状況などの評価に基づき、講座終了後学長より修了証書が授与された。講座に対する受講生の評価アンケートが作成・提出されたが、全体的には、今回の講座企画および講義内容については、おおむね高い評価が示されている。国際社会における日本の役割や貢献のあり方について、多くの市民が高い関心を持っていることがよく理解できる。

アンケートに見る個別の意見を幾つか紹介すれば、以下のとおりである。

- ・ 大変よい企画であった。昔は度々海外に出かけたが、最近の国際情勢とその

中における日本の立場が随分変わったと感じた（70歳代）。

- ・ 生活文化の国際化が、各面で意外なほど進展していることが、事実としてよく理解できた（70歳代）。
- ・ 興味あるテーマについて、様々な視点から解説して頂き、ものの見方が系統立ててできるようになったような気がする（60歳代）。
- ・ 国連の現状と日本の貢献の講座内容は大変興味深く、何回かに分けてじっくり勉強する機会が欲しいほどである（60歳代）。
- ・ 多彩な講師陣を編成したところに今回の講座の特徴があり、各分野の第一人者の話が聞けて満足であった（60歳代）。
- ・ 講師陣には若い先生方が多かったが、独断的な考えや内容に陥らず、専門家として時代の流れを示唆する講義であった（60歳代）。
- ・ 外国人のヒールシャー氏の話は、単に日本語が上手であるのみならず、講義の進め方がよく整理されているように感じた（60歳代）。
- ・ 新聞やテレビのニュースなどでは得られない情報や考え方が修得できた。また、講師の主張や見解が明快で、政治的な問題もずばり発言されたので痛快であった（60歳代）。
- ・ 産業の国際化に関する講座は、内容の難しさにもかかわらず、講師の説明や話の仕方が大変わかりやすく、現状がよくわかった（60歳代）。

国際経営研究所では、今回のちがさき市民大学への企画支援・スタッフ派遣の成果を基礎に、今後ともこの種の地域交流や地域貢献に積極的に取り組みたいと考えている。

なお、今回の第1回講座を担当された石積 勝先生に、講座で2時間にわたって話された講義を総括し、内容を整理して頂いた。講師を務められた石積先生ご自身で、自分の講義を振り返って頂くというユニークな試みとなった。その概要を次に掲載することとする。